

進む原発の廃炉 全体で4割 30年以上の原発では約7割

★40年超えの危険な老朽原発(高浜1・2号、美浜3号)は
巨額の対策工事を中止して廃炉へ!

★中間貯蔵・サイト内乾式貯蔵を阻止し、原発の稼働を止めよう!

57基の原発の状況 (2019年2月末)		
廃炉	24基 (42%)	福島Ⅰ-1~6, 福島Ⅱ-1~4, 東海1, 敦賀1, 美浜1・2, 島根1, 玄海1・2, 浜岡1・2, 伊方1・2, 大飯1・2, 女川1
稼働中	9基 (16%)	川内1・2, 高浜3・4, 大飯3・4, 伊方3, 玄海3・4
審査合格	6基 (11%)	高浜1・2, 美浜3, 東海第二, 柏崎刈羽6・7
審査中	10基 (18%)	敦賀2, 浜岡3・4, 泊1~3, 島根2, 女川2, 東通1, 志賀2
審査申請なし	8基 (14%)	柏崎刈羽1~5, 志賀1, 女川3, 浜岡5

日立が英国への原発輸出を中止したことによって、原発輸出政策は完全に破綻した。原発輸出を成長戦略として、また国内原発の再稼働のためのつなぎとしてきた政府のエネルギー政策は行き詰っている。国内の原発でも、福島第一原発事故以降、安全対策費の高騰・再生可能エネルギーの普及等により廃炉の過程が進行している。57基の原発の内、4割にあたる24基が既に廃炉を決定している。

この流れを阻んでいるのが、とりわけ危険な老朽炉の再稼働計画だ。老朽原発(高浜1・2号、美浜3号)の再稼働を止めて、廃炉に追い込もう。

稼働中の原発は、使用済燃料プールがひっ迫し、中間貯蔵・サイト内乾式貯蔵等によって原発の運転を続けようとしている。これら核のゴミ捨て場を阻止して、再稼働を止めていこう。「もんじゅ」廃炉により高速炉サイクルは破綻し、高レベル廃棄物処分も行き詰っている。

福島原発事故から8年になるが、溶け落ちた燃料デブリの取り出し方法さえ決まらず、廃炉の道筋も決まっていない。原発事故の深刻さ、被災者の犠牲と怒りと運動、各地の反対運動によって現在の状況がある。廃炉を一層進めていこう。

◆進む原発の廃炉 全体で4割、30年以上の原発では7割が廃炉

2月13日、九州電力は玄海2号の廃炉を決定した。これによって、57基の原発の状況は、上の表ようになる。福島原発事故以降、廃炉が進んでいる。政府のエネルギー政策では、2030年までに原発の比率を20~22%としているが、そのためには30基以上の原発の稼働が必要となる。しかし、その計画は事実上破たんしている。

審査中と審査の申請をしていない合計18基の原発は、再稼働の目途はたっておらず、その内の多くは廃炉になることも予想される。

審査中の泊原発は、規制委員会が敷地内の断層について「活断層の可能性が否定できない」との

見解を示し、審査は一層長引き、廃炉の可能性もある。審査を申請していない、柏崎刈羽原発1~5号も廃炉に追い込まれる可能性がある。柏崎市長は2月市議会で、柏崎刈羽6・7号の再稼働の条件としてきた1~5号の廃炉計画を具体的に示すよう東電に求めている。柏崎刈羽1~4号は、地震時に液状化による地盤沈下を規制委員会が指摘している。(これら57基以外に、建設中等の2基がある。島根3号の審査は進んでおらず、大間原発(工事進捗率37.6%)は日本発のフルMOX原発で、審査も建設も遅れている) [裏面に続く]

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会 (美浜の会)
大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル3階 2019.3.9
TEL: 06-6367-6580 FAX: 06-6367-6581

◆国相手の大飯原発止めよう裁判 傍聴を
3月25日(月)大阪地裁202号法廷
14:30 傍聴券抽選/ 15:00 法廷
終了後に報告・交流会(弁護士会館920号)

◆40年超えの危険な老朽原発（高浜1・2号、美浜3号）の再稼働を止め、廃炉に追い込もう 延命のための大規模工事と巨額の費用。しかし原子炉容器・電気ケーブルは取替できない

このような廃炉の流れに逆行する、40年超えの危険な老朽原発4基（高浜1・2号、美浜3号、東海第二原発）の再稼働を止めていこう。これを阻止できれば、その後に続く老朽炉（33～34才の川内1・2号、高浜3・4号）の寿命延長にも歯止めをかけることができる。新規制基準の「原則40年運転」を現実のものにしよう。

若狭の老朽原発の再稼働は、関電の思惑通りには進んでいない。関電は、老朽原発3基の安全対策工事の完了時期を6～9か月延長すると発表した。これによって、今年の再稼働はなくなった。

工事は大規模なもので、工事費は巨額だ。廃炉にかかる費用と比較しても、桁違いの額になって

単位：億円				
原発	廃炉費	安全対策工事費	テロ対策施設費	緊急時対策所費
高浜1	450	2160	970	?
高浜2	450			
美浜3	490	1650	600	?
高浜3	531	2304	691	?
高浜4	531			
大飯3	598	1220	?	102
大飯4	598			

福井県資料と報道資料を参照して作成

いる。老朽化対策工事は、高浜1・2号の場合、格納容器の遮蔽補強のため、上部ドーム状に鉄筋コンクリート造の遮蔽を設置し、外部遮蔽壁も補強等々。美浜3号では、基準地震動が最大993ガルに引き上げられたため、「既存の高台が地震により崩壊する可能性があるため、新たに地震に耐えうる構台を設置する」とし、基盤の補強工事までやり直すことになっている。

しかし、取替できない機器も多く、老朽炉はとりわけ危険だ。原子炉容器は取替できない。緊急

時のECCS注入による脆性破壊の危険性について、関電は脆化に関する

対策工事の完了時期
高浜1号：2019年8月 → 2020年5月
美浜3号：2020年1月 → 2020年7月
高浜2号：2020年3月 → 2021年1月

データも公開していない。2,000～3,000kmにも及ぶ電気ケーブルは、難燃性ケーブルへの取替は不可能で、ケーブルの劣化状況を判断する国の基準もない。名古屋地裁の関電老朽原発廃炉訴訟では、これら問題が争われている。

工事の進捗状況はよくて50%程だ。膨大な費用と危険を伴う対策工事の中止を求める声を強めていこう。原子炉容器等の取替もできない危険な老朽原発の運転を止めていこう。関電は、工事費用と工事内容を具体的に示すべきだ。

また、使用済燃料の県外での中間貯蔵候補地について、関電は昨年末に示すことができず、2020年を念頭に候補地を示すと表明した。老朽原発3基の再稼働時期とも密接に関係してくる。

さらに、関電の全ての原発で、基準地震動の過小評価と火山灰問題もある。大阪地裁での国相手の裁判では、これら内容を争っている。

福井と関西・愛知・岐阜等の活動を一層連携して進めていこう。

◆使用済燃料プールは満杯。中間貯蔵・サイト内乾式貯蔵を阻止して原発を止めよう

関電の使用済燃料プールは満杯に近づいている。巨額の費用を費やして運転延長を目指している高浜1号の場合、プールの空き容量は1回の運転でほぼ満杯になり、2回目の運転は不可能となる。比較的余裕のある高浜3号のプールに移送すれば、今度は高浜3号の運転のための空き容量を減らすことになる。稼働中の高浜4号もあと4年で満杯となる。

福井県の立地首長たちは、原発サイト内での乾式貯蔵も選択肢の一つと発言を続けている。しか

し、中間貯蔵もサイト内乾式貯蔵も、いったん受け入れれば使用済燃料の約50年後の搬出先はない。「もんじゅ」の廃炉によって、高速炉サイクルは破綻し、中間貯蔵施設の使用済燃料は行く先がなくなった。六ヶ所再処理工場の寿命は40年で、中間貯蔵施設から搬出しようとしてもその頃には寿命がつかっている。中間貯蔵やサイト内貯蔵は、永久の核のゴミ捨て場になる。この新たな核のゴミ捨て場を阻止して、原発の稼働を止めていこう。

「美浜の会ニュース」157号に詳しい記事があります。<http://www.jca.apc.org/mihama/>

ニュースの定期購読をお願いします。2,000円/年 郵便振込 00950-6-308171 美浜の会